

テハ事情ノ許ス限リ之ヲ其到達ノ目標トシテ採用
スベシト一 條文ヲ尊重シ左ノ條約案ヲ採擇セリ

第一條

(一) 本條約ノ適用ニツキ就業時間トハ純然タル
正味労働時間即チ各船員カ船長ノ命令ニ依リ自
己ノ船員室以外ニ於テ使役セラル、時間ノミヲ
謂フ

(二) 船舶トハ其ノ種類及ビ所有者ノ公私如何
ヲ問ハズ航海ノ爲メニ使用セラル、モノヲ謂ヒ
軍用艦船ヲ除ク外學術教育ノ目的ノ爲メニ使用
セラル、船舶ヲモ包含ス

(三) 國際労働團體ニ屬スル各國ハ各自ニ海上航
運ト内海航運トノ區別ヲ定ム可ク其ノ決定シタ
ル事項ハ國際労働事務局ニ通告ス可シ

第二條

總テ船内ニ於ケル就業時間數ハ船長及當面ヲ爲テ
ソル監督士官ノ外男女或ハ國籍ノ區別ナク一日八
時間、一週四十八時間若クハ一週以上ニ亙ル期日
ニ就テハ同一ノ割合ヲ超過スル事ヲ得ズ

但シ次條以下ノ規定及除外例ニ從フベキモノト
ス

第三條

機械力ニ依リ運航セラル、總噸數二千噸及以上ノ
船舶ニ於ケル航海中ノ就業時間數ハ總テノ船員ニ
就キ一週四十八時間ヲ超ユル事ヲ得ズ
日曜日ニ於ケル作業ハ相當ノ休養若クハ全錢ノ補
償ヲ爲スコトニヨリ又ハ其目的ヲ以テ増員シタル
船員ヲシテ作業ヲ繼續ス可シ

此種ノ船舶ニ於ケル碇泊中ノ就業時間數ハ總テノ
船員ニ就キ一週四十八時間ヲ超ユル事ヲ得ズ若シ
其ノ船舶所屬國ノ法律ニ依リ既ニ一週四十八時間
ヨリモ少ナキ時間制ヲ實行シツ、アル場合ニハ其
ノ時間數ヲ超過スル事ヲ得ズ

各國ハ千九百十九年十一月華盛頓ニ於ケル労働總
會ニ於テ採用セラレタル工業ニ於ケル労働時間制
ニ關スル協約案ニ於テ定メラレタル労働時間數ヲ
超過セザル範圍内ニ於テ各自ニ碇泊中ノ就業時間
數ニ關シ規則ヲ制定スル事ヲ得

入港出港其他必要ナル場合ニ第八條第一項ノ規定

ニ依ラズシテ該規定以外ニ船長ノ命令ヲ得ベキ超

過就業時間數ハ一週ニツキ二十四時間一ヶ月ニツキ

六十時間ヲ超ユルヲ得ズ此ノ超過時間ニ對シテハ

補償の休養若クハ超過賃金ヲ支拂フベシ

此種ノ船舶ニ於テハ甲板部員及機關部員ニ就テハ

三直制ヲ適用スベシ

但シ作業ノ性質ニ依リ連續交代制ニ依ルヲ必要

トスルモノハ此ノ限リニ非ズ

第四條

機械力ニヨリ運航セラル、總噸數二千噸以上ノ船

舶ニ就キ本條約ニ規定シタル原則ヲ適用スル方法

ハ各國政府夫レノ船舶所有者及船員ノ團體ト協

議ノ上制定シタル規則ニ依リ定ム可シ

第五條

第三條ニ規定シタル以外ノ總テノ種類ノ船舶ノ就

業時間數ニ關スル規則ハ夫レノ船舶所有者及船

員ノ團體ト協議ノ上定ム可シ

但シ事情ノ許ス限リ機械力ニヨリ運航セラル、

總噸數二千噸以上ノ船舶ニ就キ定メラレタルト

同様ノ原則ニ遵フベシ

第六條

印度人海員ノ労働時間ニ關スル規則ハ夫レノ船

舶所有者及印度人海員ノ團體ト協議ノ上之ヲ定メ

印度海員ノ現在ノ就業時間數ヲ減ズベキ規定ヲ設

クベシ

第七條

船舶ニ於テ從事セラルベキ就業時間數ハ各船舶ノ

船員ノ雇入契約中ニ記入シ雇入契約條項ノ一ツト

爲ス可シ

是等ノ契約條項ニ違反シタル場合ニハ海員ヲシテ

該船舶ノ船長又ハ船舶所有者ヲ追訴シ得ル様各國

ヲシテ適當ノ規定ヲ設クベシ

第八條

左ノ場合ニ於テハ本條約ニ規定スル就業時間數ヲ

延長スル事ヲ得

斯ル場合ノ判斷ハ船長ノミ之ヲナスコトヲ得

A、濃霧、坐礁、火災若クハ其他ノ不可抗力ニ因リ